

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270200902		
法人名	社会福祉法人 由起会		
事業所名	社会福祉法人 由起会 (おもやい)		
所在地	長崎県佐世保市上柚木町2515番地		
自己評価作成日	平成24年 6月 1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do">http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構
所在地	福岡市博多区博多駅南4-3-1 博多いわいビル2F
訪問調査日	平成24年6月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、立地的に山々に囲まれた環境にあり、四季折々の様々な変化を肌で感じられる所であり、ホームの周りには花壇があり、春には満開の花々を楽しむ事ができ、夏には数種類の野菜を植え成長を楽しみ、収穫後はお料理の食材としておいしく頂いております。また、地域行事への参加も積極的に行っており、楽しいひとときを過ごしております。利用者一人ひとりが自分らしく、残された力を十分に発揮し利用者・職員全員で助け合いながら生活していける笑顔の絶えないホーム作りをモットーに職員一同頑張っております。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな山間にある“おもやい”は開設から12年目を迎える。ホーム内は12年の歳月を感じさせず、手入れが行き届き、清潔感ある明るい暮らしが続けられている。ご利用者の方々はエプロンを付け、家事全般を積極的にしており、90歳を過ぎた方も、杖を使用せず歩かれています。車いすをご利用されている方も両手で車いすを自操され、「歩けるようになりたい」という目標を掲げて、毎朝のリハビリに取り組まれている。生け花・習字・花札・踊りなどの趣味や特技も取り入れ、“ゆったり楽しく・自由にのびのびと”いつも同じ仲間、同じ環境・残された力で暮らしの喜びと自信を”と言う理念の通りの生活がここ(ホーム)にはあった。職員のチームワークも着実に良くなっており、ご利用者と同じように、職員個々の得意な分野を発揮してもらい、体調にも配慮した職場環境が作られてきた。“ひとつのものを共有すること、お互いに協力しあって生活すること”を意味する“おもやい”。今日も和室では歌と踊りが始まり、ご利用者と職員の笑顔と笑い声がホームいっぱい聞こえている。その時の皆様の笑顔とあわせて、帰りに、玄関の横の窓から、いつまでも手を振って下さるご利用者の姿が胸に残り、心温かい気持ちでホームを後にした。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今までの事業所理念に地域密着型サービスの意義をふまえ、管理者と職員が共有した意識をもち実践につなげている。毎月1回ケース会議時、唱和を行っている。	馴染みの職員が協力し合い、日々笑い多い生活になるように努めている。職員は、自分自身が楽しむ事で、ご利用者の真の笑顔に繋がる事を理解し、24時間の生活支援を続けている。ご利用者も一緒に理念を唱和しており、日々“ここが一番”“楽しかった”“ありがとうございます”などの言葉が聞かれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が花や野菜を売りに来られたり、天気の良い日は散歩に出掛け地域の方とあいさつを交わしたり、話しをしたりと交流を行っている。	ホームのある上柚木町は“ふくろう”が住む町でもあり、地域の子供達も含めて、見知らぬ人とも笑顔で挨拶を交わす姿が日常の中に残っている。毎年5月には柚木幼稚園児が“花祭り”で母体施設に来られ、ご利用者も参加している。小中学校の運動会や公民館祭りなども楽しみにされており、涙を流して喜ばれている。	子供達との交流を楽しみにしている方が多い。今後は母体施設だけでなく、ホームにも子供達に来て頂き、一緒にひと時を過ごす機会を作っていければと考えられている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設施設において年3回地域の方に参加して頂く介護教室を開催している。認知症の講習会等も行い、認知症に対しての理解を深めたり、支援方法等も話し合っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、ご利用者のご家族、民生委員・市職員の方等に出席して頂き報告や話し合いを行っている。地域の情報も詳しく聞くことが出来る。	会議では、ご利用者がお茶を運び、当日の夕食2品くらいを一緒に食べて頂いている。日頃の食事を体験して頂く機会にもなり「美味しい」と言う言葉を頂けた。今後ホームで取り入れていく予定の夕テールケアを実践したり、日頃の活動や行事内容を写真で見ている。24年度は3回の開催を目指し、準備が進められている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要がある時は、随時連絡を行なっている。その他は、運営推進会議に出席して頂いた時などに情報交換を行っている。	介護保険の申請などは併設施設の担当者が行っている。23年7月の実地指導を活かし、タオルを個人用に変えるなどの取り組みを続けている。24年4月から市の担当者が変わり、運営推進会議の開催日のお問い合わせを下さった。今後の会議の場で、他のホームの取り組みや会議の開催方法を教えて頂く予定にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加し、正しい理解は得ている。玄関の施錠に限らず、一切の身体拘束は行っていない。	体調や気分により、精神的に波のある方もおられるが、職員が寄り添い、その方のお気持ちや個性を大切にしたい支援が続けられている。併設施設(老健)に身体拘束委員会があり、事例検討等に参加している。ホームでは見守り等を丁寧に行い、身体拘束は全くなく、契約時に家族にリスクの説明も行い、同意を頂いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	併設施設やグループホーム協議会で行われる勉強会に参加している。利用者の精神状態の変化など見逃す事なく気を配り、入浴時に身体のアザ・傷など確認を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設やグループホーム協議会で行う勉強会に参加し、正しい理解は得ており、支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安や疑問点を充分にお聞きした上で納得のいく説明を行い理解して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用の方とコミュニケーションを取りながら意見や不満などをさりげなく聞いたり、アンケートにして要望等書いて頂いたりしている。ご家族様には、面会時に近況報告と共に話す機会を設けている。	入浴の順番を決める事も、ご利用者からの提案である。日々の話し合いも、ご利用者に入って頂き、自由に意見を言ってもらっている。家族からも面会時等に要望を伺い、「今まで本人がやっていた趣味(生け花・習字・花札など)をさせて欲しい」との事で、生け花や花札、家事などを日々の生活に取り入れている。	面会時等は笑顔で出迎え、ホームでのひと時が居心地良くなるように努めている。今後も更に、遠方の方や新しく入居された方々にも日々の活動状況を伝えると共に、小さな願いを話して頂ける環境を作っていく予定である。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回法人全体のリーダー会を実施し、各事業所の意見・問題点等を聞いて改善している。運営者・管理者は、併設施設に常勤しているため随時相談可能である。	職員それぞれの役割を作り、得意分野を活かしていくことで、働きやすい環境が作られている。やる気にも繋がり、アイデアも増え、日々の業務を“さばく”ではなく、手をかけ、愛情をかけて取り組む姿勢が増えている。その結果が“手作り”であり、行事の時の料理もオードブルが作られ、花作りや暖簾作りにも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	全職員を正規雇用とし、年1回の昇給及び年2回の賞与は確実に実行している。資格取得時には、定期昇給とは別に特別昇給を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内でも様々な研修を実施しており、法人外での研修への参加も勧めている。また、介護福祉士等の資格取得も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐世保市グループホーム連絡協議会の役員として勉強会の計画及び実施等に参加し、他のグループホームと情報交換を行い当ホームの運営に役立てている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時に必ず面談を行い、本人の思い等を十分に伺い、話し合い安心して入所して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に必ず面談を行い、ご家族が困っている事、不安に思っている事、要望等を十分に話し合い安心して入所して頂けるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、ご本人やご家族等と面談を行い十分に話し合い、契約を取り交わし入所して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員とご利用者と共に基本姿勢(四つの葉)を毎日唱和し、日々の生活の中で信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、健康状態や生活状況を書面にて報告行い、面会時にも必ず近況報告を行っている。いろんな情報を共有しながら共にご本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙でコミュニケーションを取って頂いたり、ご家族にご本人の思いを伝え、出来るだけご本人の思いが叶うよう動いて頂いたりと途切れないよう支援している。	地元の方は、メロン祭りやよかもん市などの地域行事を楽しみにされている。祭りの場所では、地域の方から「久しぶり～」と声をかけて頂き、ご本人も嬉しそうに話されていた。お寺参りや馴染みの美容院に行かれています。また、「40年来の友人に会いに行きたい」との要望で、電話で了解をとり、訪問させて頂いた方もおられる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の日課やレクリエーション時、出来ない部分を助け合ったり、思いやったり、難聴の方には、職員やご利用者の方が耳元で大きな声で説明してあげたりと孤立しないよう支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に連絡等は行っていないが入院されている方のお見舞いに行ったり、外出先でご家族などに出会うと近況等を伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の思いや意向は、必ずお聞きし把握している。困難な場合は、ご家族に相談したり生活歴を参考にし本人本位に検討している。	ご利用者が1人の時に声をかけたり、日常のさりげない会話の中から、ご本人の思いを伺っている。3月と9月に行っているアンケートや毎月の家族面会時に面談を行い、ご利用者と家族の希望を聞くようになっている。ご本人の行動の背景にも目を向け、昔の写真と一緒に見ながら、ご本人を知るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人より生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境などお聞きし把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食欲の有無や摂取量、バイタルチェック等の健康管理、会話や表情などから精神状態を観察し必ず毎日、9人全員の利用者の方と会話を交わすようになっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすため、チームで意見交換をしながらアイデアを出し合い現状に即した介護計画を作成している。	ご利用者のできる事やご本人の役割として、家事全般などと共に、編み物や散歩や買い物、喫茶店でコーヒーを飲む等の楽しみも盛り込まれている。医師や家族の役割も明記され、ご本人の思いと能力、生活歴に寄り添った介護計画が作られている。今後も引き続き、介護日誌(夜間)の書き方を検討していく予定である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、業務日誌・介護日誌に行ったケアの実践・結果などを記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況に応じて、形に捉われない柔軟な支援を行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し、必要性がある時は支援を行うようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、本人の訴えやご家族の希望を第一に優先し行っている。かかりつけ医と事業者との信頼関係も築けており、適切な医療を受けられるよう支援している。	日々の健康管理に努めると共に、日々の活動の成果もあり、風邪をひかれる方もおられない。週1回の往診時には適宜医師に相談でき、ホーム内で注射等も受けられている。半年に1回の定期健診は職員が同行し、他科受診は家族や個人契約のヘルパーが同行している。受診結果は家族と共有できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、利用者の健康には気を配り、医療的に聞きたい情報や気づきなど、常に併設施設や協力病院の看護師に相談行い適切な受診や看護を受けられるよう支援行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、病院関係者との密な情報交換や相談等行い連携を取っている。特に協力病院とは週1回往診を行って頂き、日々の健康管理についても常々相談を行い関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホーム内では、重度化や終末期のケアは行っておりません。	共同生活ができる事を基本とし、機械浴での入浴が必要になった場合等は、ご本人の安楽も考えて、併設施設の生活を紹介します。「最期までここで・・・」というご利用者と家族の希望がある場合は、ぎりぎりまで精神誠意の対応をしていく予定にしている。重度化しないよう歩行訓練を行い、生活リハビリにも努めており、常々往診の医師と連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応については、併設施設での講習に参加したり応急処置のDVDを見たりと定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設施設での地域合同訓練や消防訓練・消防訓練に参加し、地域の方の協力を得られるよう働きかけを行っている。ホーム単独の避難訓練も年2回行うようにしている。	災害時は、施設設置のサイレンで近隣住民の方に協力を依頼している。地域の方や消防団、消防署の方に参加頂き、年1回、法人施設全体で夜間災害を想定した避難訓練が行われ、ホーム単独での訓練(2回)も実施されている。災害時に備えた食料などは、併設施設から給食委託会社の方で準備されている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	いつも目上の方であるという意識を持ち人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けが出来るよう気を配っている。	入職時は法人で接遇研修等を行い、外部の研修時では虐待の研修も行われた。良かれと思つての声かけが、実際はどうかという視点での振り返りも行われている。常に人生の先輩として尊敬の念を持って支援するよう、否定的な言い方はしないようにしており、居室内の物に触れる時は必ず許可を得るようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のさりげない会話の中で、本人の思いや希望などを聞いたり、表したりする機会を作るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して職員の都合を押し付けたり、優先することなく個々のペースを把握した上でその方にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服は、職員の好みを押し付ける事なく、本人の希望に合わせて選んで頂いたり、美容室も本人の希望する髪形を聞いたり、ご本人の行きたい美容室に行けるよう支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	使用する食材の相談、下ごしらえから盛り付け・配膳・片付けまで利用者と共に行っている。	“食事を楽しく”と言う思いを大切にしている。あえて皮つきの食材を購入し、ご利用者はエプロン姿で下ごしらえや家事全般をして下さっている。旬の食材を使った美味しい料理が毎日作られており、ご利用者からも「この食事は美味しいよ」と笑顔いっぱい話して下さった。料理上手な職員も多く、毎月の外食も楽しまれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のバイタルチェックや血液検査を元に食事量や塩分等の加減をドクター指示の元に行っている。水分摂取量が少ない方などには、声掛けを行い摂取促している。栄養バランスに関しては、併設施設の栄養士にチェックを依頼している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日4回口腔ケアの声掛けを行い実施して頂いている。口腔内異常及び義歯の不具合の訴えがある場合は歯科受診を行って頂いている。義歯の洗浄が不十分な方には、洗浄剤を使用している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	紙パンツやパット等を使用されている方など一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛け誘導を行いなるべくトイレにて排泄して頂くよう支援を行っている。	布パンツで自立している方も多いが、ご利用者個々の排泄パターンや尿量を把握した誘導を行う事で、パットの枚数を減らす事ができている。小声でのトイレ誘導を心がけ、トイレの中でもカーテンを閉める等、羞恥心への配慮も続けている。便がついている時は、さりげなく誘導して洗浄を行うなど、常に清潔が保たれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	3月より毎朝180CCの牛乳を飲んで頂いており、その他に野菜や果物を多く取り入れたバランスの良い食事を提供し、毎日のラジオ体操や歩行訓練など運動する機会を設けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は、一応月・水・金の14時30分からとしているが、希望により時間帯の検討も行っている。	入浴好きな方が多いこともあり、ご利用者からの要望で、順番表が作られ、浴室の入り口に貼られている。長風呂が好きな方は最後にするなど、希望も大切にされた入浴支援が行われている。時には2人で入浴する事もあり、おしゃべりを楽しまれている。「いい湯だな」と歌が出る日もあり、柚子湯や菖蒲湯も楽しまれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や生活習慣に合わせて休息して頂いている。体調不良以外の昼食後の臥床は夜の安眠を保つ為に1時間程で離床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方箋の副作用等の記入を行い、十分理解すると共に症状の変化の確認にも気を配っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人のやりたい事や趣味、楽しみなど一人ひとりの希望を聞きながら見つけ出すと共に生活歴や力を活かした役割なども探し出し気分転換も含め張り合いのある生活をして頂くよう支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	出来る限り一人ひとりの希望にそって、園芸や散歩など戸外に出掛けリフレッシュ出来るよう支援している。又、本人の希望がかなえられるよう、ご家族の方に協力して頂いている。	施設全体の敷地は広く、中庭の季節の花々を眺めながら散歩されている。玄関横の草取りをして下さる方もおられ、つわやふき採りにも行かれている。外食や花見、喫茶店でコーヒーやジェラートも楽しまれている。23年度から、ご利用者を1~2人を各職員が担当し、外出支援を行っている。希望に応じて化粧品や洋服を買いに行かれたり、職員宅の山でミカン狩りを楽しまれている。	



自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人希望でお金を所持して頂いたり、お買い物などの外出支援の際、支払って頂いたりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の訴えや職員が思いを察した時は、いつでも電話が掛けられるよう支援している。手紙も同様である。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い空間作りに気を配り、玄関・居間・食堂に季節の花を飾ったり、廊下にも季節感の出る小物を飾ったりしている。リビングには、家庭的な違和感のない家具や手作りの小物などを置いている。玄関・トイレ・各居室に消臭剤を置き不快感等を取り除いている。	廊下にはソファが置かれ、ゆっくり談笑されている。リビングと畳の部屋は広く、外からの光も入り、ベランダの洗濯物が家庭的な雰囲気を出している。畳の部屋は、ご利用者の踊りの披露の場にもなっており、楽しいひと時を過ごされている。西日の入る窓には朝顔やヘチマでグリーンカーテンを作り、換気も定期的に行っている。CDの音量にも配慮し、心地よい環境になるように努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ観賞には、気がねなく座って頂けるよう一人掛けの椅子を置き、廊下の明るい花壇の見える窓ぎわに気の合う仲間とおしゃべりをしたりと気ままに過ごせるソファを置き居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた物や愛着のある物を持って来て頂いたり、お花やご家族の写真などが心が落ち着くような物を飾ったりとご本人が居心地よく過ごせるお部屋作りを工夫しています。	部屋の障子が落ち着いた雰囲気を作っており、自宅から持ってこられた筆筒や椅子、お人形などを思い思いの場所に置かれている。日々の生活の中で撮影した写真が部屋に飾られ、家族の面会時の良き話題となっている。家族が仏壇を持ってきて下さった方もおられ、ご本人がお花を活けて、手を合わせる姿が見られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・浴室には、手すりを設置しており、ベランダの物干し台は高低がある物を使用している。居室の扉には、ネームプレートを掛けており、トイレのタオルには、個々に記名行っている。		

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	外 ( 2 )	子供達との交流を楽しみにしている方が多い。母体施設だけでなく、ホームにも子供に来て頂き、一緒にひとときを過ごす機会を作っていければと思っている。	母体施設で小学生の体験実習を受け入れているので、当ホームにも数人来て頂き、利用者の方々に楽しいひとときを過ごして頂く。	母体施設の実習担当の職員に、小学生の体験実習を受け入れる際、グループホームにも2~3名来て頂くように話をして了解を得る。	12 ヶ月
2	外 ( 6 )	面会時は、利用者の方の活動状況を今以上に詳しく伝え、またご家族様の要望等も気軽に話して頂ける環境を作っていく予定である	ご家族の要望等を把握すると共にご利用者の生活状況等を今以上に説明し、安心して頂く。	ご家族の面会時、さりげなく要望を伺ったり、ご利用者の生活状況を今まで以上に説明を行い安心して頂く。年1回書面にてホームに対しての要望等を書いて頂く場を設ける。	12 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月